



TTCJ 2016年5月例会（5月19日） レポート

タイトル：「中国最新旅行事情 PART II - 激変する中国の社会・ビジネス・旅行市場 -」

“Latest Tourism Affairs in China, Part II

- Dramatic Changes in Social & Business Spheres and Tourism Infrastructures in China”

講演者：秋澤 文芳氏(観光文化ツーリズム (株) 代表取締役)

講演者である秋澤氏はご自分の旅行業界での経歴を述べ、いつ頃からどのように中国に関わるようになったか等を語りながら、今日までの日中間の旅行者数の変化を説明しました。2007年の日中国交正常化35周年には日本人の訪中者が年間397万人、中国人（中華人民共和国）からのインバウンド・訪日者が97万人であったが、2015年にはそれぞれ約250万人、500万人になってきました。（講演の後半で、中国人の海外旅行者は1.2億人、海外からの旅行者数は1.4億人、国内旅行者は42億人となっていますが、そのうち海外旅行者と海外からの旅行者数のうち約1億人は歩いて出国、歩いたり車で「入国」する人達だ、という面白い話がありました。そうだとすると、海外旅行の1.2億から1億を引いた2千万人のうち、500万人（約25%）が日本を訪れているということになります。）

講演の中国についての要旨は以下のとおりです。

中国について語るときにはいろいろな切り口がありますが、いくつかのジャンルに絞ってみます。

（旅行・ツーリズム）

まず中国から消えたもの（こと）の4つを紹介しましょう。

- ・大気汚染：スライドでお見せしましたように、今年4月・5月に訪れ、滞在した北京の空は青く澄み渡っていました。PM2.5に代表される大気汚染が消えたようです。
- ・日本人団体観光客：ほぼゼロと言っても過言ではないでしょう。4月に訪れたときには全く日本人観光客を見かけませんでした。ピーク時の約400万人のうち6～6.5割が「ビジネス」客と言われ、そのビジネス客はほぼ横ばいですので、減少分の150万人の観光客が「消えた」ということになります。
- ・日本語ガイド：観光客の減少に伴い、現地日本語ガイドも見かけなくなりました。現地にいるのはシニアの、年寄りのガイドだけで、30～40代のガイドは日本に来て訪日中国人観光客相手に仕事をしています。現地なら8万/月（初任給）なのが日本では100万以上/月、稼ぐことができます。
- ・中国旅行のパンフレット：日本人旅行者の激減で日本では中国旅行のパンフレットが消えました。募集しても集まらない、集まらないからパンフ・チラシは作らないという悪循環に陥っています。

（不動産）

2017年後半に北京の「遷都」が予定されています。北京市人民政府機能及び関連機関が、中心部から約20キロの東部地区「通州区」に移転します。地下鉄「6号線」の終点近辺で、今現在、建設が急ピッチで

進められています。この「遷都」により数 10 万人単位の人口が移動すると考えられます（現在のところ 40 万～50 万人の副都心が誕生）。現在の北京市は、日本の四国くらいの大きな面積を持ち、人口は 2000 万人以上、周辺地域の人口を合わせると 3500 万～4000 万人が集中しているので、集中リスク（例えば交通渋滞）が緩和され、更に大気汚染も解消されるという期待されています。

私は大学近くの高層アパートに 8 畳の部屋を借りていて毎月 2000 元、約 4 万円の家賃を支払っていますが、安く寝泊まりするには「地下室」という部屋もあります。6 畳で月 7 千円くらいで、そこに 4～6 人くらいで生活している人もいますし、周辺には平屋建ての更に安く狭小の部屋も点在しています。

（経済）

昨今の中国経済の減速により中国全土では約 13 の地区が「ゴーストタウン化」していると言われていいます。このような地区を「鬼城」と言います。例えば、内蒙古のオルドス市や河南省の信陽（嘗てはこの地区に北京が遷都されるという噂もあり、多くのビルが建設されました）が今はゴーストタウンとなっている開発地区があります。

他にも貧富の格差の拡大や高齢化などの問題等を抱えています。

（インターネット）

秋澤氏と同じ大学の後輩で観光管理学部大学院出身で日本の大学にも留学していた、現在は日本にある上場企業でネットビジネスの会社で働いている崔さんが中国の最新ネット事情を説明されました。

ネット人口：7 億人。普及率は 5 割強なので、今後、まだまだ大きく伸びる余地があります。

ネットを使いこなしている：日本人以上にネットが大好きで、ネットリテラシーが高い。買い物は「微信（Wechat）」と呼ばれる LINE のようなアプリを使えば簡単にできます。買い物の 80%はスマホを利用しています。

「楽天」に相当するアリババ'Alibaba'、

「Yahoo!」のようなサーチエンジンは百度'Baidu'、

そして LINE に相当する'Tencent'や'Wechat'があります。

中国内で旅行をする際に活用するためには

第 1 ステップ：旅の情報発信

 'Baidu'などのアプリを使い、小さな広告によってユーザーを集めます

第 2 ステップ：現地に公式アカウントを持つ

 広告の効果を測ります

第 3 ステップ：問い合わせに即回答する

 中国では即回答が必須

第 4 ステップ：第 1～3 ステップの改善を常時行って最適化します。

 シンプルに考えることが大切です。

（その他）

講演時間が限られていたため触れられなかった課題/問題点として

- ・中国内の 2013 年 10 月に初めて施行された旅行業法（現状にそぐわなくなっている）
- ・三者バランス（客、会社、地方政府）
 ガイド、ホテル、バス、違法ショッピング
- ・中国内における紅色（政府・党のゆかりの地を訪ねる旅）・黒色（震災・災害等に関連した保存地区、

施設を訪ねる旅)・緑色旅行等、七色の旅の実情について

- ・ニュース (国営放送が即日、日本のニュースを放送している。我々も情報発信時は留意必要)。

最後に、現地情報をよく知っていれば、そして事前に十分に旅先や現地情報を調べておけば旅行もし易く、また楽しくなる。中国全土には魅力あるところが多いので、これから訪中する日本人観光客が (日中国交回復 45 周年も控えていることから)、今後は更に伸びていくことが期待できると締めくくりました。

(文責 ; TTCJ 事務局、IY)

参考 :



2017 年北京市人民政府の「遷都」
(移転先 : 通州区) 現在工事中



廃墟の街・人影無「ゴーストタウン」
(内蒙古 : オルドス市)



2013 施行「中国旅行法